

『熱い心で 大成ファイト!』～体育大会スローガン～

朝夕はさすがに涼しくなってきました。日中はまだまだ残暑が厳しいけれど、創立50周年記念体育大会の練習が進んでいます。体育大会はもとより、学校行事の多くは、うまく気持ちを通じ合わず失敗したり、非難し合ったりしながらも心を一つにして、やり遂げることに意義があるのです。やり遂げた達成感や充実感、頑張った人にしか味わえない心地良い感覚です。これを一度味わうと“次も頑張ろう”という意欲が湧いてくるものです。皆さんには、力一杯仲間とともに頑張っ、必ず達成感や充実感を味わって欲しいと願っています。それが体育大会が成功したということの証なのです。

【練習の様子】



(3年男子)



(3年女子)



(ほうきの使い方を間違っている!早朝練習)

*朝練に参加の皆さんへ
運動場は譲り合って使うこと。
朝学活に遅れてはいけません。
担任や学年の先生に従うこと。
早く学校に来すぎないこと。
授業に支障が出ないこと。
(寝たらイカン!)
以上厳守すること!

【コミュニケーション】

最近、人と会って話をするとき、自分のことばかりべらべらと話す人や、こちらが不安になるほど何にも話さない人もいて、「この人は、何を考えて私と会っているのかわからない」という経験をした。今対面している相手の様子や状況を読み、それに合わせるこころができる力こそ大切な『生きる力』だと思う。ある缶コーヒーのテレビCMに、会社の取引相手と直接会って話をしようとする中年社員と、電子メールだけで要件のやりとりをしようとする若手社員の話があった。『電子メールは、こちらの都合で時間に余裕のあるときに、伝達事項を書けばよい。相手も、時間の余裕のあるときに読めばよい。自分の都合、相手の都合、双方に利益がある。』という電子メールの利便性は認めるけれど、相手のことを考えずに、自分の都合だけで「伝達」が済んでしまうことに少し違和感がある。やはりメールに頼らないコミュニケーションの力をつけることが、相手の様子や状況を読み、それに合わせるこころができる力をつけることになるのだと思う。先の缶コーヒーのCMでは、メールの後、相手と直接会って話をすることになる結末だ。校長先生の年代では、会って話をすることが当たり前なので、この結末に違和感がない。君たちはどう思う?

【50周年ポスター&図案&感謝】

夏休みに50周年記念ポスターの作成を呼びかけたところ、22枚のポスターが寄せられました。また、航空写真の人文字図案も公募したところ、369枚もの図案応募がありました。ポスターは、美術の松原先生に優秀作品を選んでもらいましたので、校内に掲示するとともに、記念誌にも載せたいと思います。また、人文字図案は、原版として写真屋さんへ渡しましたので、デザイン化された後紹介します。撮影予定日は、9月27日です。ところで、50周年を記念し祝賀するために、育友会OBの方々や卒業生の皆さん、地域の皆さんに、資金面も含めて大変お世話になっております。大成中学校のために力を尽くしていただいているのです。このことに感謝の気持ちを持ちたいし、卒業生として、地域の学校として誇りに思ってもらえる大成中を築いていく責任が、私たちにはあると思います。めざせ!“PROUD OF 大成”!!



【大成50年ごぼれ話(その1お墓とお地藏さん)】

始業式でもふれましたが、昭和36年創立時、大成中グラウンドの中央には江戸時代中期から続く墓があり、夏になるとヘビがわんさか出てきたとか・・・お墓のために、運動会もできなかったが、お墓を粗末に扱ってもできないし、困っていたところ、お墓を所有していた皆さんが、生徒達のためにならと移転して下さいました。お墓を動かしたことで子ども達に良くないことが起こってはいけないと、移転費用の一部を割いてお地藏様まで建立して下さいました。お地藏様は、子どもの健やかな成長を見守る神様です。おかげで、翌年第1回運動会が盛大に開かれたそうです。ただし・・・お墓には無縁仏の墓(だれも供養や見守りをしてくれないお墓)などもあったので、しばらくは幽霊が出たとか出ないとか・・・

